

## 令和2年度第2回 那珂市子ども子育て会議 会議録

1 日 時 令和2年12月3日(木) 午前9時55分から午前12時14分まで

2 場 所 那珂市役所本庁舎4階 庁議室

3 出席者

### (1) 委員

清水悦子委員、加藤智恵子委員、山田義文委員、岩上賀子委員、山田日出美委員、萩谷美登里委員、筒井かよ子委員、長山芳子委員、大曾根香澄委員、山元知代委員、小田倉いずみ委員、平野道代委員、川田俊昭委員、小橋聡子委員

### (2) 事務局等

こども課 課長 篠原広明、課長補佐(総括) 住谷孝義、課長補佐 子育て支援グループ長 水野厚子、主幹 船橋亜希子、主幹 野上涼、子育てコンシェルジュ 櫻井敏子

学校教育課 課長 会沢実

4 欠席者 大和田優委員

5 会議内容

### (1) 開会

#### ○住谷課長補佐(総括)

皆様おはようございます。定刻より若干早いですが、欠席の報告をいただいている方を除き皆さんお揃いですので、只今から、令和2年度第2回目の那珂市子ども・子育て会議を開催いたします。

なお、今回のこの会議の会議録等につきましては前回同様公表させていただきます。また、質疑等につきましては、委員の皆様の前にマイクがございますので、発言の際には、ボタンを押してから発言いただきますようよろしくお願いいたします。

本日は、大和田様から欠席のご連絡をいただいております。出席者につきましては、半数以上の出席をいただいておりますので那珂市子ども・子育て会議条例第6条の規定により会議は成立していることを報告させていただきます。

### (2) 会長あいさつ

#### ○住谷課長補佐(総括)

それでは、那珂市子ども・子育て会議の清水会長よりごあいさつをお願いいたします。

#### ○清水会長

皆様おはようございます。もうすでに年末ということであつという間に1年が経ってしまい、またコロナの対応で皆様大変ご苦労されている方も多いのではないかと思っております。

前回は、那珂市の経過の報告ということで議論点は少なかったかと思いますが、本日の議題に関しましては、那珂市でも今年度4月時点で、保育所入

所ができなかった子どもたちが11名いるということで、まだまだ待機児童の問題が解消されていないということを伺っております。

そういった中で、保育施設の受け皿不足解消ということで、こういった形で那珂市の子育て対策を行っていくのかということ協議の場というのが今回設けられた場ということですので、皆さん忌憚ない意見をいただいて那珂市の政策に反映するという形で、実りある会議となればと思っておりますので皆様どうぞご協力の程よろしくをお願いいたします。

本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

○住谷課長補佐（総括）

ありがとうございました。協議事項に入る前に、本日配布しました資料の確認をお願いいたします。

（資料の確認）

（3）協議事項

○住谷課長補佐（総括）

それでは、次第3の協議事項に入ります。

ここからの議事進行につきましては、那珂市子ども・子育て会議条例第6条の規定により、清水会長をお願いいたします。

○清水議長

それでは、議長を努めさせていただきます。進行が円滑に進みますようよろしくをお願いいたします。

それでは、協議事項に入ります。

（1）第2期那珂市子ども・子育て支援事業計画～待機児童等アクションプラン～（案）について事務局より説明願います。

○水野課長補佐

（資料の説明）

○清水議長

説明ありがとうございました。かなり盛りだくさんな内容だったかと思いますが、議題となっているところとしては0、1、2歳児の待機児童が多くなっているのと、3歳児に対しても少し定員が必要ではないかということで、どのような保育施設を整備すべきなのかを話し合っていきたいと思います。まず、最初に現場の声としまして、大成学園幼稚園の岩上園長先生、ゆたか保育園の山田園長先生にご意見を伺いたいのですがいかがでしょうか。

○岩上委員

園では、定員を満たしているというような状況になりますけれども、やはり1歳とか2歳で市の方から受け入れは可能ですかと連絡があるなど、1歳2歳の預けたいというニーズは高くなっているのかなと肌で感じています。ただやはり園の方を見ると施設の面であるとか保育士の数ということで、中々定員までしか受け入れられない現状があります。

それから、3歳、4歳、5歳については、1号認定、2号認定が混ざった状態で教育保育をしている訳ですけど、1号認定で入ってきたお子さんで

も途中から2号に変更したいと、そして2号認定も枠がありますので、新2号というかたちで変更を希望されている方が非常に多いというのを感じております。

ただそうしますと、新2号のお子さんが入るということは、午後の預かりの人数も増えるということで、午後の保育士の体制、数にも関係してきます。

園でも今後さらに、新2号が増えていくのかなということで、どういう体制でやっていけばいいのか考えている現状です。

○清水議長

ありがとうございます。

新2号に年度途中になる場合、人数制限はありますか。

○岩上委員

いいえ、ありません。相談を受け、保護者の就労時間などで市の方で認定が出てくるかたちです。

○清水議長

ありがとうございます。

それでは、ゆたか保育園の山田園長先生お願いします。

○山田（日）委員

わたくしの保育園でも、今年度2名職員が産休育休を1年取得するというところで、受入れ人数を年度当初よりセーブしてしまったということがございます。

例年ですと、学生さんの就職を見据えた活動において、東京とかそちらのほうが補助金、家賃補助ですとか茨城県より高いということで、自立をして東京に出るといような姿が多くみられていました。

なかなか求人しても新規卒業の学生が来ないのですが、今年度に関してはコロナの影響でしょうか、実家から通ったほうがいいということで、何件か新人職員さんが見学などに来ている状況で、1名は採用を決めました。働きたい方がいれば、採用して、できるだけ多くのお子さんを預かりたいと思っています。

現状ですが、コロナの関係でできるだけ密接を避けたいので、クラス単位での保育にしています。朝7時から夜7時までで、朝晩の職員の少ない時間帯は合同保育をしていましたが、現在は、年齢ごと各クラス1名、2名で保育するため、大変になっています。

感染者が出た場合、できるだけ濃厚接触者の数を最小限にするための対応ですが、そこにジレンマを感じています。

それから、潜在保育士さんは子育てが終わった方や、子育て中の方です。そうしますと、子どもが幼稚園から帰ってくる前までに帰りたいですとか、小学校から帰ってくる前には帰りたいですと、午前中のみ働いている職員もおりますし、4時まで扶養内で週4日とか、5時までですとか、どうしてもそういったパートさんの保育士が多いです。

実際、預けるお母さま方は、保育料を払っているもので、保育園が開いてい

る時間、延長保育料がかからなければ、6時までは見てもらって当然という  
ような、意識のズレがあり、夕方には職員も減るので、仕事が終わったらす  
ぐにお迎えに来てほしい思いがありますが、今の若いお母さんは、お仕事が  
4時くらいに終わっても、家に帰ってご飯の用意をしてから来るとか、お買  
い物を済ませてくるとか、その辺どのように知らせていけばいいのか思っ  
ているところです。

そういうところで、パートが多い保育園では、パートさんも帰さなければ  
ならない。ですが、遅くまで残っているお子さんが多い現状があるので、保  
育時間を申し込んだ時点で細分化してもらえると、少し違うかなという気持  
ちがあります。

○清水議長

ありがとうございます。細分化というのは、園の裁量という訳ではなくて、  
決まりとしてということでしょうか。

○山田（日）委員

はい。園独自で、看護師がおりますので、合同保育にしていたら全員が濃  
厚接触者になってしまう。全員がPCR検査をするようになってしまいます。  
仮に、2歳児で出た場合、2歳児の職員と園児だけで良いという、そういう  
ことを考えて対応しています。

○清水議長

ありがとうございました。

ほか、本日の資料の中でわからない点やご質問などは無いでしょうか。

○筒井委員

資料の中で、保育士の確保について、保育士がいなければ保育もままなら  
ないと思っておりましたら、最後に今後の保育士確保対策プランとして、保  
育士人材バンクなどの案が出ておりますので、それを読ませていただいて素  
晴らしいことだと思い納得しました。

○清水議長

ありがとうございます。

保育士確保については、施設をつくる段階でも必ず課題になるもので、重  
要な施策だなと感じます。

ほかにご質問ある方いらっしゃいますか。

○大曾根委員

資料を読んだの疑問ですが、12ページになります。

こちらは、現状の把握ということで、ポイントのところで疑問に思ったん  
ですが、「待機児童解消並びに他市町村利用の子どもも市内で保育できるよう  
にするためには、市内全体での保育定数の拡充が必要と考えられる。」とあり  
ますが、市内保育施設の定数が拡充したら、他市町村の利用ができなくなる  
のでしょうか。

職場近くの保育施設を利用するニーズは、市内保育施設が増えても変わら  
ないと思います。他市町村を利用したい方のニーズの解消にはならないので

はないかと思いますが、その辺りはどのように考えているのでしょうか。

○水野課長補佐

那珂市の保育施設に枠がないということで、市外の勤務先近くの保育園を選ぶという方も中にはいるので、市内の保育施設の利用を可能にしたいという考えで、市外保育施設を利用できなくするなどの制限するつもりはありません。

市外の保育施設を利用すると、そこでお友達など関係性ができてしまい、就学時に市外に引っ越そうかという考えも出てくる可能性もありますので、できるだけ市内の保育施設を利用して、お友達関係を構築して那珂市に定住していただきたいということを考えております。

○清水議長

ほかに、ありますでしょうか。

ひまわり幼稚園のことについてお伺いしたいのですが、公立幼稚園ですと2年保育でやっているかと思いますが、これからのニーズとしては、3歳から預けたいというニーズが高いかと思いますが、ひまわり幼稚園は定員を満たしているのかということと、国の方では認定こども園を増やしたいと認識していますが、今後の幼稚園の動向について、今後整備する保育施設についても大きくかわってくるのではないかと思いますので、ご説明をいただければと思います。

○小橋委員

ひまわり幼稚園は、平成31年4月に開園して2年目です。以前は、5つの幼稚園がありまして、それぞれの定員割れがある状況の中、統合幼稚園として設立したものです。

定員ですが、4歳児が105人、5歳児が105人、計210人定員になっております。実際在籍しているのが、4、5歳児共に77人前後ということで、3クラスございまして、1クラスにすると25人という規模になっています。

定員は、国の設置基準に基づくもので、35人以下にするというのが基準にありますので、4歳児3クラス、5歳児3クラスで210人という、国に基づいた定数枠になっています。

ただし、1クラス35人というのは、非常に教育環境としていいとは言えないところで、現実的には、今25人で大変いい教育環境であると考えており、定員を充足していない件については、特に問題ないと考えている現状です。

3歳児保育については、昨年10月の幼児教育・保育の無償化が非常に大きな影響があると思っています。無償化なら預けようというお母さまの意向がシフトしていく。働きに出るとなると保育の需要が伸びていくという中で、幼児教育に特化してやっているなので、ニーズと現状の体制では乖離が見られる。保護者のニーズに私たちは答えられないという危機感を持っています。

来年度、新4歳児さんの応募も例年75人だったのが、少し満たない感じ

になっており、再募集もかけている状況ですので、幼児教育・保育無償化で、保育所の高まりが影響しているのかと思います。

詳細な分析は今後と思っておりますが、もしそうであれば、今後も同じ傾向がみられるのが必至なので、3歳児をどうしていくかというのを、大きな課題だととらえています。

私どもが、2か年保育にしたという経緯が、平成27年の統合建設準備の段階で外部の有識者の意見を踏まえた中で、最終的に決定しましたが、当時の考え方としましては、民間でできることは民間で、役割分担という中で民間さんをお願いしようと議論がありました。その結果で開園を迎えたということで、それをずっと継続するわけではなく、社会情勢も刻々と変わっておりますので適切に見直しを図っていかなければいけないというところです。課題としては認識しています。

認定こども園ですが、建設準備の段階の中で、民間の方をお願いしようと、公立幼稚園は1か所づくり、認定こども園は民間さんにとという方針を決定しましたが、それも待機児童の解消という点で、こども課と今後どうあるべきか、公立としてどうあるべきか考えをすり合わせていく段階に入ってきている実感はしております。

○清水議長

ありがとうございます。79名ということは2クラスにするには多くて、3クラスにするとうちょうどいいということですね。

今後は状況を見て、今度新しくつくる保育施設と連携しながら、同じような会議の場でやっていらっしゃるということでしょうか。

○小橋委員

那珂市立幼稚園教育対策協議会という組織がありますので、その中で幼稚園の代表者の方も入っていただいているので、一緒に協議をしていきたいと考えております。

○清水議長

そうですね。どうしても、文科省と厚労省で違ってくるとなかなか意思疎通をしながら定員を調整していくというのは難しいと思っております。

○小橋委員

もちろん、この子ども・子育て会議でも内容は共有していくべきものと思っております。

○清水議長

母親の立場として、どのようなかたちで子育て支援が進んでいったらよいかご意見をうかがえますか。

○山元委員

周りでも、(ひまわり幼稚園は)3年保育になぜならなかったのかと話になります。やはり小さなお子さんがいても働きに出るお母さんが多いと感じます。あと園バスがあると便利ですか。少しずつ公立幼稚園の考えを変えなければならぬのかと思います。

○清水議長

(ひまわり幼稚園は) 預かり保育はしていますか。

○小橋委員

5時までしております。

○清水議長

幼稚園の保護者の皆様は、幼稚園に預けながら働いている方はいらっしゃいますか。結構な割合ですか。

○山元委員

やはりお迎え時間に間に合うように働いている方もいますし、5時まで預かり保育を利用する方もいます。割合はわかりません。

預かり保育に関しては、すごく安い料金で預かっていただいている、「ひまわり幼稚園いいよね。」というような意見も聞いています。ありがたいです。

○小橋委員

働いている割合ですが、約3割、45人程度がフルタイムと聞いています。新2号認定になる方が、その程度いると記憶しております。

参考までに、預かり保育ですが、お母さまの就労体系ということで、5時まで預かりをしています。利用人数としては20人程度です。新2号認定として45人程度いますが、実際に預かり保育を利用する方は毎日20人ということなので、在宅で見えてくれる人がいるとか、その方がどうしても保育所でなければだめだとか、イコールではないということを感じています。

○清水議長

ありがとうございます。同居されている方が多いということのもこの地域の特徴でもあるということですね。

○山田(義)委員

資料を見て、菅谷中心主義が明確となっていますが、現況はどうでしょう。市外から移動してくる人、トレンドがこの資料の中には一切書かれていない。コロナの時代だからこそ変わりつつあるのが現況だということ認識してもらいたい。

農地法適用によって、農地を農転して市外の方が住む家。農転というのは菅谷がほとんどです。菅谷は市街化区域が多いので。ここ近年、今年の1月からデータですと、月平均10件くらい農転の申請がでています。

ほとんど調整区域に住む人たちで、親御さんが住んでいて、10年以上その教育を受けていた若い人が戻ってきてそこにお家を建てるという方が、私が把握するだけで月平均7~8件いる。一昨年、昨年と比べるとはるかに上昇している。今まで2件くらいしかなかった。

コロナを契機に、潜在的に思い入れのあった若い人たちに一気に火が付いた。地方の県庁所在地の周辺のエリアに起きはじめていると認識しております。

そのときに、菅谷中心主義でいくことがいいのか。菅谷中心主義でやると、菅谷がダメになる。近隣にある、ひたちなか、東海、常陸太田と同じ

戦いをするより便利なところに流れる。そうなったときに那珂市の存在価値がなくなる危険性もある。その辺も考えてやっていったほうがいいのではないかと考えております。

今回のデータを見て、隠された部分。過去のデータ、3、4年前のデータを蓄積したところで、今後のことがわかるかというトレンド的にはわかるかもしれないが、正確性はないと思います。

聞いていますと、顕著に見えるものがあります。公立幼稚園の役割とはいったい何なのか。ニーズに合っているのか。

市民にとって、文科省とか厚労省とかどうでもいい。0歳児から5歳児までをいかに養育できるか、教育できるかがお母さんたちに大事であって、われわれの横堀幼稚園も統合されてひまわり幼稚園に行きました。果たして何のメリットがあったのか。閉園するときにはいろいろなことを言います。結果的に今どうなっているのか。状況分析したうえでよくなっているのか。来年度4月何名がこの幼稚園に入ってくるのか。計画通りなのか。その辺を検証したうえで、抜本的にあり方を変えていく必要がある。

バスの運行がなければバスの運行をすればいい。保育士には関係ないですね。給食も週2回。増やすこと可能ですよね。現況はやっているのですから。週2回できるということは、週5回できるということです。制度の中で変えていかないと、ひまわり幼稚園は閉園することになってしまう。コストがかかりすぎて。そういう危険性もあるのではないかと。現状乖離しているので、経営から見てもニーズに合わないことをしていたら、尻つぼみになるのが目に見えている。

その辺も含め、もう一度検討すべきではないかと思っております。

過去のデータですが、先を見定めたうえで、すべてが良くなるのではなく、この部分に集中しますというようなプランでやっていただきたいと思っております。

#### ○小橋委員

山田委員、ご意見ありがとうございました。非常に耳が痛くて、胸に迫るご意見でした。

行政の一番悪いところは、一度決めたらずっとそれ。これは決まりですから、制度ですから、方針ですからと言います。でも、行政が決めてそれに縛られるのは同じ人で、行政の一番悪いところだと思います。

今回、山田委員がおっしゃった課題、たった開園2年目にして、切実な課題として認識しています。

来年度中に、幼稚園教育振興計画を作る年度となっています。その中で、ゼロベースからひまわり幼稚園の運営体制を見直していきたいと思っております。山田委員がおっしゃった課題そのものを、保護者たちのニーズがどのようなものなのか、アンケート調査をしながらやっていけないかと考えているところなので、この委員の皆様にも報告しながらやっていきますので、もうしばらく動きを見ていただきたいと思います。

○清水議長

ありがとうございました。もう1点、山田委員からありました、調整区域の視点についても、菅谷地区に保育施設をつくるべきか、ということで、那珂市はまちづくりに関する会議も同時進行しているかと思いますが、その辺りで説明いただける方いらっしゃるかでしょうか。

○篠原課長

都市計画課の方で進めている内容になりまして、立地適正化計画というものでございまして、そちらの中で、今後少子化が進んで、社会構造がコンパクトシティ化されていくという中で、50年、100年先にどういったまちづくりを進めていくか今の段階から考えていくというような趣旨の計画となっております。その中で住居地域であったり商業地域であったりを、一定の所へ集約しようという考え方があると認識しております。

今、その計画を策定している段階で、先の話になると現在どのように議論されているか把握してはいるのですが、住宅地域であったり、農業地域であったりですとか、医療とか福祉とかも含めてまとめていくコンパクトシティを主に議論しているものだと認識しているところでございます。

補足ですが、山田委員から話が出ました、人口の部分。今、菅谷地区の過去のデータを見ますと人口が多くなっていて、転入・転出の部分を見ても転入超過となっている。全体的な数は減っていますが、ほぼ横ばい状態であると、これまでの傾向ではあったと今回示しましたが、直近の状況でいくと、最近はそうではないよというアドバイスもいただきましたので、農政・農業委員会に確認したいと思っております。

おそらく、区域指定という新たな制度の内容かと思いますが、今後どういう風な人口構造になっていくのか、那珂市としての社会構造がどのようになっていくのか、今回新たな現状という部分で把握していきたいと思っております。

我々も、計画を策定していく中で、何が難しいかということ、将来をどのように人口動態を見極めるのか難しいと感じています。今後のトレンドを見据えるということについては、正直わからない部分もあります。

たとえば、最近、農地に家が建つのが多い一方で、那珂市では10万円の定額給付金、皆さんもいただいたかと思いますが、その基準が4月27日現在でした。那珂市としましては、4月28日以降、来年の3月31日までに生まれるお子さんにもプレミアム商品券を3セット、39,000円分になるかと思いますが、それを差し上げるという事業を行いました。

その件数ですが、260何件だったかと思っております。いわゆる出生者数ということ、今年が321でしたが、今までは400人くらいを推移していたところ、令和2年生まれの0歳が321人、去年の出生者数は340人ですね。7ページの上のほうにありますが、31年の出生者が340人いらっしゃいます。400人くらいできていきましたが、これが少なくなってきました340で、令和2年の4月1日現在が321人。これがいよいよ300を切りまして、260人台、4月の1月分をプラスしても、おそらく300になるこ

とはないというふうに思っております、子どもの数はほんとに減っております。

今後、このような状況が続くようであれば、さらに子どもの数は減少していってしまいますし、それらを踏まえたうえで施設整備を考えていかなければならないというのは、すごく困難な内容になっている。なかなか難しい内容となっており、先ほどの幼稚園との協議も含め、那珂市にとってどういった施設を整備するのがいいのか。

今回ご紹介した内容では、そもそも保育施設さんの方には定員を超えて預かっていたくよう市からお願いしたり、市外にも相当数お子さんが行っているとか、トータルで考えると、現実的にまだ足りないと思います。ただ、これが20年後、30年後になったときにどうなるかということを考えると大きなものをつくるもの危険な気がしますので、その辺も見極められればいかなということ、現状の部分をお示しし、保育施設さんとか幼稚園の事業者さんと意見交換をしまして、次回に何らかの形で示したいと考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

#### ○清水議長

ありがとうございます。今、お話があったようにコンパクトシティということで、那珂市はまちづくりを進めている段階において、この保育施設をどこにつくるのかという議論も必要ですし、これから人口・出生数が減っていく中で新しい施設をどのようなかたちのものをつくっていく必要があるのか、非常に大事なポイントかと思ひます。

35ページ開いていただけますか。ポイントのところ、「既存施設の適正定員の減数」がございます。こちらについて、現場のお話を伺いたいなと感じております。今は、通常の定員数を超えて定員の増員というのを市からお願いしているということですが、当初の定員数より減るということに関しては、経営という点もかかわってくるかと思ひます。

定員というのは、保育の質と非常にかかわってくるころでもあると思ひますが、今後、適正な人数に減らして、新設保育園へ移っていただくのがいいのか、現状はそのままがいいのかその辺りのご意見を伺ひします。

#### ○岩上委員

大成学園幼稚園では、施設そのものが非常に少ない人数で、70人程度で始まったものを、3、4、5歳は2クラス、1、2歳を増設している構造上、定員までしか入れられない。

そうしないと、部屋の広さが足りないという現状で、遊戯室そのものも限られた広さですので、うちの園では適正な定員で行っていくのが、それによって職員の人数を配置している訳なので、適正な人数でやっていけるのが一番。また、保育や教育の質を維持していくためにも必要と考えます。

#### ○山田（日）委員

ゆたか保育園も同じように考えてはおります。当初120名定員で建築した建物の中で、入所希望が多くなっているという現状を踏まえ150人定員

に増やしました。

やはり、0, 1の希望者が多いということで、ランチルームをつぶして0歳さんを別の部屋にということ、クラスを変えたりできる範囲のことはやっております。

やはり、定員が適正だと思います。それによって質の高い保育ができるのかなと思っておりますが、働く保護者が多いということで、可能な限りは受けてあげましょうという思いではあります。

大人も子どもも同じだと思いますが、狭い1つの部屋に人が増えることによって窮屈になり、子ども同士だとうまく言葉が使えず、噛みつきやひっかきがあります。うまく部屋を移動したり、発達の子はクラスを移動したり工夫しながら保育している状況なので、無理に定員をオーバーして保育することが良いとは思わないので、その辺のところは理想と現実ではないですが、難しいと日々感じております。

#### ○清水議長

ありがとうございました。適正な人数でとなった場合は、待機児童がより増えるという状況がここ数年は続くだろうと思っております。

どういう形の施設をつくるのかというところについて、施設の概要、どのような施設形態が現実的にあるのかというところを、事務局の方から追加でご説明いただければと思います。31ページから33ページあたりの内容かと思っております。

現時点でどの施設が適正かと考えているのかについても追加でお願いします。

#### ○水野課長補佐

現在どの規模の保育施設を整備したらよいか悩んでいるところです。通常の保育施設になりますと、定員60人以上になってきますが、年齢の配分についても、未満児さんの枠が足りないということですので、未満児を増やし、進級したときに枠がないということにならないようにした形で、それぞれの歳児さんの人数を考えていきますが、先ほど説明したように、上の年齢になれば幼稚園とかほかの園の受け入れも足りている状態なので、大きい園を1園増やすとなると、既存施設の定員割れを起こしてしまうというところで悩んでいるところです。

32ページにある小規模保育事業は、最大でも19人までの保育施設になり、0から2歳児の保育施設になりまして、一番困るのが、ご兄弟の方が一緒に利用できればいいのですが、3歳児になったときに転園をしなければならない。下のお子さんは在園しているとなったときに、同じ保育園に通わせたいと思うお母さまが多いと思っておりますので、結局兄弟そろって転園という流れになるのかなと思っております。また、あまり施設同士が離れていると通わせづらいということもあるので、立地的な部分や施設の規模など、まだ事務局でも悩んでいるところです。

#### ○清水議長

ありがとうございます。(片方が) 転園となった場合、兄弟一緒に転園となりますね。難しいところかなと思います。

もし、ご知恵のある方、ご意見のある方いらっしゃいましたらお願いします。

○平野委員

私たちの業務の中で、色々なご家庭のお母さん方がいます。そういった場合、お家にいるよりは保育所にいてももらったほうが子どもの安全を確保できるというご家庭も那珂市にはたくさんあります。

そういったところでは、各保育所の先生方には大変お世話になっているところですよ。

どうしても昼間だけでも家庭には置いておけないお子さんは、こちらで意見書を作成し、保育所に在籍することもあります。そういった中で、子どもたちをお母さんがどのようにして連れて行くかです。

貧困のお母さんは車がないので、どうしても菅谷のアパートに集中している。これは、現実的な問題で、駅のそばとかに住んでいる方が多いので、車があることばかりを考えないで、自転車で行く方についても考えてもらいたいと思います。

もちろん、大きいところで見れば、五台地区や瓜連地区をカバーしている施設はあると思いますが、お母さんがひとりで両方の手に引いて、おんぶして連れて行かなければならないことも考えれば、建てる場所も考えていただきたいなと思います。

もう1点、菅谷がどうのこうのではありませんが、ちょうど中心になってまして、お母さまたちは移動の距離が非常に大切で、距離間が。仕事に行くのに便利なのは、通勤途中なので、そういったところで利用率が多いのかなと考えています。

保育の方を考えていっていただけるのであれば、待機児童が出ているというところと、まだ預けていない方もいらっしゃいますが、一時保育というところで少し枠が増えてくるとお母さんも楽なのかなと思います。

実際に相談がある方には、精神的に産んだ後うつになり、毎日だけでなく1日でも2日でも預かってもらえれば、自分としては立ち直れるという方がいます。

那珂市としては、一時預かりもよくやっているのは認識しているのですが、どうしても預けたい日にかぶってしまい預けられないという話も聞きますので、そのようなところも少し考えていただけるとありがたいなと思います。

○清水議長

ありがとうございました。どのくらいの人数のご相談を受けているのですか。

○平野委員

年間通しては何百件とありますが、それが全部別かというのと、同じお母さんが回数を重ねて相談に来るということを考えますと、今資料がないのでは

つきり申し上げられないですが、相当数の数になっております。

その中で、貧困問題を抱えていたり、虐待等もあり見守らなければならないことを考えると、ゆたか保育園さんにもご無理を言ってお願いしている部分がありますが、保育園のこれからの役割というのは大きいのかなと思っております。

○清水議長

ありがとうございます。今のご意見を伺いますと、菅谷地区あたりで、自転車で行ける地域的な場所。非常に現実的なポイントだと思います。

また、事務局からありました、小規模保育事業で新設の園をつくると、定員が最大で19名ということですので、1園のみでは難しいかと思えます。設置場所を検討していく必要があるのかなと思っているところです。

駅のそばというのもありましたけれど、このあたりの地理が詳しくないですけれど、菅谷地区で言いますと上菅谷駅がメインでしょうか。

○平野委員

駅の近くに（関わっている）お母さまが多いというだけですので、その辺は立地条件等考えて、色々なことが出てくるのかと思えます。ただ、菅谷だけで3つの駅があります。関わっているお母さまは、そのような駅周辺に多いのかなと思えます。

○清水議長

ありがとうございます。その他どうでしょうか。お母さん代表として小田倉委員どうでしょうか。

○小田倉委員

私は今、上の子をひまわり幼稚園に預けていまして、下の子が3歳で、同じくひまわり幼稚園に預けようと思っております。上の子は75名ほどいるという話ですが、下の子のときに何人になるかという不安はあります。減少しているという話を先ほど聞きまして、少ないのであれば預け先を考えようか。ひまわり幼稚園を希望していますが、お友達が少ないと子どもにとって寂しいなというのがありますが、もう少し公立幼稚園を活気的にしてほしいという要望があります。

○清水議長

ちなみに、園を選ぶ基準というものはありますか。

○小田倉委員

私は、妊娠をきっかけに仕事を辞めました。自分自身子育てに専念したいという思いもありましたし、主人も理解してくれて専念することができています。

子どものころ人見知りがあり、4歳から預けられるひまわり幼稚園を選んだというのがあります。3歳までは、私と一緒に過ごし、支援センターとかに遊びに連れて行きました。4歳から行くんだよと話して、楽しく行くことができます。

○清水議長

そうですね。働くという選択だけでなく、働かない選択をされたご家庭の役割としての幼稚園もあるのかなと思います。

ほかにご質問等ある方はいらっしゃいますか。

○加藤委員

私は額田ですが、幼稚園はなくなり地域の核になるものが無くなってしまくと、行政から除かれたような、何をどうしていったらいいのかわからなくなっている状態だと思います。

私たちの子育て時代は、小学校があり幼稚園があるから、そこに帰って子育てをしようかというような考えがありましたが、それが無くなり、もし小学校もなくなったら、中々戻って子育てすることが難しくなる。やはり、地域が衰退すれば、子どもたちも帰って来ない。高齢社会になってしまうのかなという思いでいます。

どうしていいのか私にもわかりませんが、やはり幼稚園が建ち上がるときに、2年保育ではなく3年間に、こども園のように保育事業ができるような、そのようなのがあったら変わってきたのかなという思いもあります。

○清水議長

ありがとうございます。地域に幼稚園があるから戻ってきてと。小学校の学区でお友達がなくてかわいそうだから別の場所に引っ越すとかの話もありますが、それと同じようなことが那珂市内でもおこってくるという認識を持ちました。

○萩谷委員

加藤委員に伺いますが、うぐいす保育園が常陸太田にありますね。あそこは、幼稚園と保育所が一緒でしたね。それはどうですか。

○加藤委員

子育て支援もあり、保育園、幼稚園が一つの建屋の中にあります。子どもたちは、一緒の小学校に行きますので幼稚園の子たちも、保育園に長く居る子たちも一緒に行くというところで絆がずっとつながっているという良さがある。市長の思いで、子どもたちがバラバラでは、ということで、あのようなかたちになっていました。

幼稚園生であろうと、保育園生であろうと給食をいただきました。また、預かり保育もありました。

○萩谷委員

委員に参加させていただいて何年にもなりますが、子どもが離れてあまり関心が無かったのですが、孫が通うようになりまして、うちの子は幼稚園、隣の子は保育園。幼稚園と保育園が一緒に給食もついていて、お値段もそれほど変わらない。このような幼稚園と保育園があったらいいなと思います。

ひまわり幼稚園ができたとき、そのようなものがあってもよかったのにと、そのような事を思いました。

○清水議長

ありがとうございます。時間も経過しておりますので、最後に、学童保育

のご質問があると伺っておりますが。どなたでしょうか。

○筒井委員

計画書の16ページになりますが、学童保育所の人数がありますが、ゆたか学童クラブがあります。こちらは後台にあります、ほかの学童に比べて人数が圧倒的に多いものですから、何か特徴があるのか質問したいと思いました。

○山田（日）委員

ゆたか学童クラブをやっておりますが、立ち上げ当初が年度途中で、子ども数が少なかったため、開設当初は、夏休みにはできるだけお母さんに負担がかからないように、宿題を見てあげよう、遠足に連れて行ってあげよう、とありとあらゆる企画をしたものと、豊潤会は3つ保育園がありますが、その保育園を卒園したお子さまだけを預かっており、小さい赤ちゃんの時から育ちがわかるのでそのまま継続で、保護者の方も継続していただければいいと五台小だけでなく、菅谷小と菅谷西小、菅谷東小までバスで迎えに行っています。その関係で人数が多いです。五台小だけではありません。

だんだん、保護者教育がいいのかなと思ひ、すべてお任せでは違ひ。親子の関わりを私たちがやってしまうのでどうかと思ひ、夏休みの宿題に関してはヒントやサポート的なことにしましたが、職員の方で習字が得意の方がいれば見てあげるなど、できることをやっています。

現在やっているのが、英語教室とスイミング教室で、うちを拠点にして通ったり、親が働いている時間にいろいろな習い事をさせてあげる。学研さんも入っています。

それで、希望があるのかなと思ひますが、バスでの送迎といつても大きいバスがある訳ではないので、東小とか菅谷小に関しては人数制限させていただいています。

○筒井委員

リベールキッズスクールなど、車で送迎しているのが多いですよ。ゆたか学童さんのような内容でやっているところもあるでしょうし、各学童の運営というのはそれぞれの考え方でやっているのでしょう。ちなみに、食事はありますか。

○山田（日）委員

うちでは、手作りおやつはありますが、食事まではありません。フォレストさんが確か希望者には出しているということを知っています。

○筒井委員

人数が突出していましたので特色があるのかと思ひお聞きしました。ありがとうございました。

○清水議長

時間がかかり押しておりますので、こちらの議論というのは終わりにさせていただきたいと思ひます。

事務局にお戻しいたします。ありがとうございました。

#### (4) その他

○住谷課長補佐（総括）

清水会長ありがとうございました。

4番の「その他」でございます。事務局より報告がございます。

○船橋主幹

（那珂市子ども・子育て支援関連事業報告書P5までの説明）

○会沢課長

（那珂市子ども・子育て支援関連事業報告書P6からの説明）

○住谷課長補佐（総括）

ただ今の報告の中で何かご質問等はございますか。

ないようですので、「その他」を終了したいと思います。

○川田委員（保健福祉部長）

（新型コロナウイルス感染症について近況報告と予防対策のお願い）

○住谷課長補佐（総括）

ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。

長時間にわたる慎重なご協議、大変お疲れ様でした。

委員の皆様方におかれましては、今後も引き続きご協力・ご指導をよろしくお願いいたします。

なお、次回の会議開催の日程でございますが、来年1月25日（月）午後2時から場所は同じ庁議室で予定しておりますので、その際はよろしく願います。

それでは、以上をもちまして令和2年度第2回那珂市子ども・子育て会議を閉会といたします。皆様、お気をつけてお帰りください。

お疲れ様でした。